

仙台たんすは、江戸時代初期に伊達政宗が仙台藩主だったころ、築城の際に建具の一部としてつくられたものがルーツだと言われている。仙台藩の武士たちが刀や着物などをしまう家具として愛用した仙台たんすは、仙台市の市木でもあるケヤキの木材を10年以上寝かせ、30もの漆塗りの工程を重ねて表面を磨き上げ、縁起物や家紋をあしらった金具を取り付けている。この伝統的なたんすは、今もなお仙台の地でつくり続けられている。

門間筆筒店は明治5（1872）年の創業で、以来145年にわたり同じ場所で製造を続ける唯一の

藩祖・伊達政宗のまちづくりにより、**杜の都**と呼ばれる仙台で、**門間筆筒店**は伝統工芸家具である仙台たんすを中心とした高級家具を販売している。以前は自社で製造した仙台たんすの販売のみだったが、今では市の中心地に店舗を構え、提案型のショールームを展開している。自社に専門の職人を抱えて製造から販売まで行うたんす店は珍しく、近年はネット販売や海外進出も進めている。

家業を継いで見えてきた 将来への不安

[特集1] 大繁盛店には理由がある **新発想で売る 今どきの小売店**

大型ショッピングモールや全国チェーン店に負けずに地域で独自の地位を築いている小売店がある。なぜ人が集まるのか？ 何を売っているのか？ なぜ売れるのか？ 誰もが一度は訪れてみたい繁盛している地域の小売店の戦略に迫った。

時代に合わせた家具で集客し 自社製造の仙台たんす販売につなげる



▲monmaya大町店の店内には、テーブル用の無垢材や家具とともに、仙台たんすやmonmaya+の製品などが展示されている

社名 株式会社門間筆筒店
 所在地 宮城県仙台市若林区南鍛冶町143
 電話 022-222-7083
 H P sendai-monmaya.com
 代表者 門間友子 代表取締役
 従業員 12人（パート含む）

門間筆筒店

宮城県仙台市

仙台たんす製造元となっている。かつて仙台藩の足軽だった初代が明治維新後に家具づくりを始め、三代目が法人化して、今に至る同社の礎をつくった。工房には指物師（家具など木工品の職人）や塗師といった職人を抱え、昭和初期に建てられた住宅と工房は国の文化財にも指定されている。

現在、同社の専務取締役を務める門間一泰さんは、大学を卒業後、リクルート社に勤務していたが、平成23年の東日本大震災後に退職。家業を継ぐために戻ってきた。「もともと家に戻るつもりでいたのですが、そこに震災が起こって店の見通しがつかなくなり、家に戻



るのをいったん見直しました。ところが震災後すぐに父が亡くなり、母一人ではやっていくことが難しいということ、結局は戻ってきませんでした」と門間さんは言う。父親である先代の後を継いだ母親が六代目社長となり、将来は門間さんが七代目を継ぐことになるが、実質的にはすでに門間さんが会社の運営をすべて担っている。

「私が戻ってきた当時、店は裏の工房でつくったものを表の店舗で売るという形でした。建物も20年前から『仙台筆筒伝承館』として公開していたので、博物館のような形で仙台たんすを見せるという位置付けのほうが強かった。販売もしていました、積極的に宣伝もせず、営業に回っていませんでした。このままでは先細りなので、顧客との接点を増やすための新たな取り組みが必要でした」

そこから門間筆筒店の新たな展開が始まった。

無垢材のオーダー家具を扱い、購入潜在層にアプローチ

「前職での最後の2年間はプライベート関連で家具を扱う部門にいたので、自社の製品だけを販売しても売れないことは分かっていました。すべて手づくりの仙台たんすは高